

第 36 回運営会議（2004. 8. 20 開催）結果報告		2004. 8. 21 庶務発信
開催日時：	2004年8月20日（金）10:00～11:20	
場 所：	キャンパスプラザ京都 2階第2会議室	
参加者数：	運営会議委員6名（委員長、治水部会長、琵琶湖部会長、環境・利用部会長、淀川部会長、猪名川部会長） 河川管理者3名	
検討内容、 決定事項	<p>1 委員会の今後の進め方について （ダムワーキング）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 検討が遅れていることから、現委員の任期を延ばし、十分検討した上で意見書をまとめてはどうかという意見もあるようだが、期限を延ばしても完全な結論が出る性質のものではないことから、運営会議の意見としては「既定路線で検討を進めるべき」ことが確認された（現委員の任期中に意見書をまとめる）。 ・ 可能な範囲でとりまとめ、積み残しが出る場合には課題として明示する。 ・ 具体的には、9月、10月でサブダムWGでの検討を鋭意進め、第35回委員会（11/16予定）にダムWGとしての「素案」を提出する。 ・ これまでは河川管理者から説明を受ける形で進めてきたが、相当量の資料提供がなされていることから、今後はダムWGのメンバーも主体的に手を動かして検討していく。その過程で必要な資料等については河川管理者に提供を求めていく。 ・ ダムの代替案については、真剣に検討すべきものとそうでないものを、委員会として河川管理者に伝えていく必要がある。 <p>（地域部会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ダムに関する説明・議論は、全体委員会と地域部会で重複する可能性がある。また、地域部会でどれだけ有効な意見が得られるか疑問な面もある。 ・ 地域部会でのダムの扱いは、各地域部会で意見を聞いて進める。 ・ 地域部会（琵琶湖部会と淀川部会）で扱うダムを調整し、サブダムWGと地域部会を合同で実施することも考えられる（今後調整）。 ・ 計画内容の進捗点検については、地域部会が中心になって検討し、その結果を全体委員会でまとめる。 <p>（委員会全体）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当初のスケジュール通り進める。委員の任期延長は行わない。 ・ 今後の委員会では、ダムワーキングからの中間報告を受けていく。 ・ 新たな委員会に向けた準備は9月から粛々と進める予定（←河川管理者）。 <p>2 第32回委員会（8/24）の議事内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 審議内容は、1)状況報告、2)ダムワーキングにおける検討経過、3)委員会の今後の運営方針、とすることが確認された。 ・ 2)については、今本リーダーが「淀川水系における事業中のダム」（今本リーダー作成、精査予定）を用いて報告・説明を行う。これまでのダムWGで提出された資料は、机上資料として準備する（複数人で1セット）。 ・ 3)については、「既定路線通りに進める」ことで確認をとる。 ・ 時間的な余裕がある場合には、一般傍聴者からの意見聴取に十分時間をとる。 <p style="text-align: right;">以上</p>	

※このお知らせは委員の皆様に必要な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。